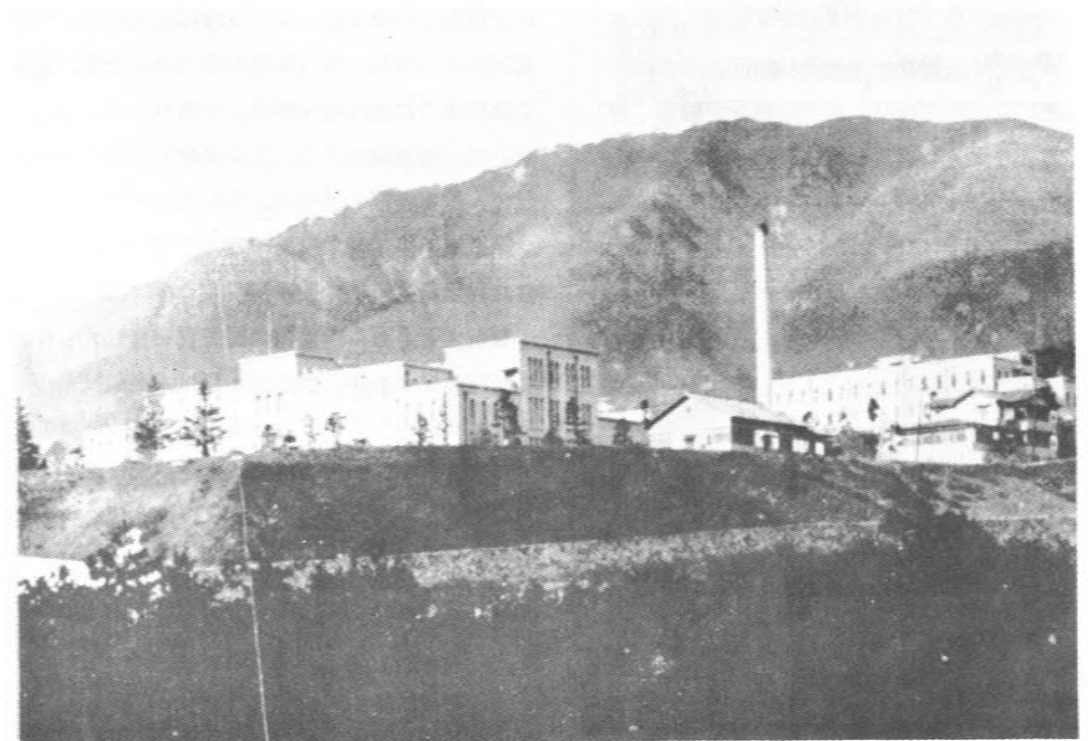


神戸大学学報

No. 430

1992.7 庶務部庶務課発行



神戸商業大学全景

| 目 | | 次 | |
|----------------------|---|---------------------|----|
| ◇学内ニュース | 2 | ◇学事 | 13 |
| ◦新役員紹介 | | ◦学位授与 | |
| ◦エモリー大学マルジリー教授の来学 | | ◦在籍学生数調(平成4年5月1日現在) | |
| ◦遺伝子実験施設竣工式の举行 | | ◦平成5年度入学者選抜方法等の決定 | |
| ◦山口誓子学術振興基金公開講演会 | | ◦平成5年度大学院学生募集要項(抜粋) | |
| ◦上海財経大学訪日団一行の来学 | | ◇掲示板 | 36 |
| ◦第9回医療技術短期大学部公開講座の閉講 | | ◦職員の住所変更等 | |
| ◦訃報 | | ◇日誌 | 36 |
| ◇法令 | 5 | ◇神戸大学100年史編集室だより | 37 |
| ◦政令 | | | |
| ◦省令 | | | |
| ◇学内規則 | 5 | | |
| ◇人事 | 7 | | |
| ◦異動・研修等・海外渡航 | | | |

学内ニュース

◇新役員紹介

※附属教育研究施設等の長

(6月8日 発令)

| 施設 | 部局 | 官職 | 氏名 | 併任期間 |
|----------------|------|----|------|--------------------|
| バイオシグナル研究センター長 | 医学部 | 教授 | 西塚泰美 | 4. 6. 8 6. 6. 7 |
| 教育実践研究指導センター長 | 教育学部 | 教授 | 中島和一 | 4. 6. 8 6. 6. 7 |

◇エモリー大学マルジリー教授の来学

6月1日(月)午後1時25分にエモリー大学(アメリカ合衆国)マルジリー(Luigi G. Marzilli)教授が鈴木学長を表敬訪問されました。

同教授は、日本学術振興会の招へいで日本の大学等において化学に関する講演を行うため来日し、この機会に交流協定校である本学を訪問されたものです。

学長室での懇談では、瀬恒理学部助教授が同席し、学術交流の推進についての意見交換が行われました。

その後、自然科学研究科中会議室において大学院生、学部生及び教官を対象に、同教授による「生物無機化学、有機金属化学に関する学術講演」が行われました。



—国際主幹—

◇遺伝子実験施設竣工式の挙

去る6月3日(水)午前11時から遺伝子実験施設の竣工式を同施設において行いました。

式典は、文部省、兵庫県、他大学及び学内関係者約100名が列席し、位田施設長の式辞で始まり、鈴木学長の挨拶、松尾施設部長の工事概要報告、文部省学術国際局長(代読 太田研究助成課科学研究費助成企画室長)及び兵庫県企画部長(代読 福田企画部次長)から祝辞が述べられた後、建築工事関係者に感謝状を贈呈して終わりました。

続いて、同施設のP2、P3実験室、RI管理区域の入退室管理システム、共焦点レーザー顕微鏡等の主要な設備・機器を見学し、その後自然科学研究科棟で披露祝賀会を行い同施設の竣工を祝うとともに今後の発展を誓い合いました。

同施設は、本学の組み換えDNA実験技術の普及及び発展を図るとともに遺伝子構造及び機能を解析するための研究を行い、生命科学に関する教育・研究の進展に資するための学内共同教育研究施設として設置されたもので、いよいよ6月から利用が開始されます。施設の概要は次のとおりです。

1. 建物面積

建築面積 353㎡

延床面積 1,711㎡

(内207㎡は、バイオシグナル研究センター)

2. 構造

鉄筋コンクリート造 5階建

3. 主要設備機器

共焦点レーザー顕微鏡

プロテインセンサー

ペプチドシンセサイザー

DNA合成/精製装置

多機能超遠心機

高速冷却遠心機

卓上型分離用超遠心機

高速液体クロマトグラフィー

クロマトチャンバー

超低温フリーザー

人工気象器

炭酸ガス培養装置

マイクロマンピュレーターシステム

エレクトロポレーションシステム

インキュベーターシェーカー

ウォーターバスシェーカー

ダブルビーム分光光度計

分光蛍光光度計

紫外可視分光解析システム

安全キャビネット

液体シンチレーションカウンティングシステム

ガンマーカウンター

放射性有機廃液焼却装置

入退室管理システム

ハンドフットクロスモニター

パーソナルコンピューター

ワークステーション



—理学部—

◇山口誓子学術振興基金公開講演会

第5回山口誓子学術振興基金公開講演会が6月6日(土)午後2時から午後5時30分まで神戸国際会議場(国際会議室)において開催されました。

信太周教育学部教授の司会により、実行委員会委員長堀信夫教養部教授の開会の辞、鈴木学長の挨拶に続き、山口誓子氏が「一句を選ぶ」、福田秀一氏(国際基督教大学教授)が「東西の旅」、尾形功氏(元東京教育大学教授)が「俳句の可能性」と題して講演され、長谷川善計文学部長の開会の辞により盛会のうちに終了しました。



—庶務課—



◇上海财经大学訪日団一行の来学

6月16日(火)午後2時35分に上海财经大学(中華人民共和国)湯云為副学長他3名の代表団一行が本学を訪問されました。

一行は、日本の学术界との友好関係を促進するため来日されたものです。

本学では、本部庁舎4階特別会議室において、池本経済学部教授(国際交流委員会委員長)と、相互の大学の現状及び今後の大学間の学術交流に関する意見交換が行われました。



—国際主幹—

◇第9回医療技術短期大学部公開講座の閉講

本年度公開講座の閉講式を6月27日(土)にカンファレンスルームにおいて行いました。

同講座は、5月30日から6月27日の5週間にわたって毎週土曜日に「家庭内での医療—症状とその対応—」をテーマとして10講義を行ったものです。

一口に症状といっても種々様々で、急性のものもあれば慢性のものもあります。それらの中から最もよく見られる症状をいくつか採り上げ、自分自身や身の周りの方にそういった症状があった場合にも、落ち着いて適切な対応ができるようにと講義テーマを選択しました。

また、日常生活の中で活用できるストレッチ体操や軽体操の実技指導と、現代人にとって健康管理上大きな問題である肥満についての講義も採り上げました。

このため、梅雨の時期としては天候にも恵まれ、受講者からの質問も活発に行われるなど好評のうちに講座は閉講し、受講者75名の内6講義以上を受講された64名の方に、修了証書を授与しました。

—医療技術短期大学部—

◇訃報

医学部附属病院副薬剤部長 梅田常雄氏は去る6月30日(火)午後8時58分、[redacted]のため逝去されました。享年43歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は昭和50年2月医学部附属病院薬剤部に奉職されてから17年余を本学の薬剤業務のために誠心誠意尽力されました。氏の責任感ある仕事ぶりや誠意のある人柄は教職員はもとより患者からも信頼と敬愛を受けられました。

なお葬儀は7月3日(金)午前11時から下記の自宅においてしめやかに執り行なわれました。

御遺族の住所は次のとおりです。

[redacted]

[redacted] 様



—医学部附属病院—

法 令

◇政令

政令第216号 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令

(平成4年6月26日付官報)

◇省令

文部省令第25号 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令

(平成4年6月26日付官報)

学 内 規 則

◇神戸大学入学料免除取扱規程の一部を改正する規程

(平成4年7月1日制定)

改正要点

大学院における入学料の免除の対象者として、学則第40条第5号(大学に3年以上在学し、本学において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者)に該当する者を含めることとしたこと。(第6条第1項関係)

神戸大学入学料免除取扱規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年7月1日

神戸大学長 鈴木正裕

神戸大学入学料免除取扱規程の一部を改正する規程

神戸大学入学料免除取扱規程(平成3年3月8日制定)の一部を次のように改正する。

第6条第1項中「卒業し」を「卒業した者(学則第40条第5号に該当する者を含む。)」のうちに改める。

附 則

この規程は、平成4年7月1日から施行する。

◇神戸大学附属図書館人文・社会科学系図書館利用規程等の一部を改正する規程

(平成4年6月23日制定)

改正要点

- 1 神戸大学附属図書館人文・社会科学系図書館利用規程
 - (1) 土曜日の開館時間を午後0時30分から午後3時30分までとしたこと。(第3条関係)
 - (2) 休館日に春季、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日を加えたこと。(第4条第2号関係)
- 2 神戸大学附属図書館自然科学系図書館利用規程
 - (1) 土曜日の開館時間を午後0時30分から午後3時30分までとしたこと。(第3条関係)
 - (2) 休館日に春季、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日を加えたこと。(第4条第2号関係)
- 3 神戸大学附属図書館人文科学系図書室利用規程
 - (1) 開館時間を午前9時から午後5時までとしたこと。(第3条関係)
 - (2) 休館日に土曜日を加えたこと。(第4条第1号関係)
- 4 神戸大学附属図書館教育学部分館図書閲覧規程
 - (1) 開館時間と午前9時から午後5時までとしたこと。(第6条関係)
 - (2) 休館日に土曜日を加えたこと。(第7条第1項関係)
- 5 神戸大学附属図書館医学部分館利用規程
 - (1) 土曜日の開館時間を午後0時30分から午後3時30分までとしたこと。(第3条関係)
 - (2) 休館日に春季、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日を加えたこと等。(第4条第1項及び第2項関係)
- 6 神戸大学附属図書館教養部分館利用規程
 - (1) 土曜日の開館時間を午後0時30分から午後3時30分までとしたこと。(第3条関係)
 - (2) 休館日に春季、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日を加えたこと等。(第4条第1項及び第2項関係)

神戸大学附属図書館人文・社会科学系図書館利用規程等の一部を改正する規程

(神戸大学附属図書館人文・社会科学系図書館利用規程の一部改正)

第1条 神戸大学附属図書館人文・社会科学系図

書館利用規程（昭和60年7月15日制定）の一部を次のように改正する。

第3条を次のように改める。

（開館時間）

第3条 図書館の開館時間は、次のとおりとする。

平日 午前9時から午後8時（春季、夏季及び冬季の休業期間中については午後5時）まで

土曜日 午前0時30分から午後3時30分まで
第4条中第5号を第6号とし、第2号から第4号までを1号ずつ繰り下げ、第1号の次に次の1号を加える。

(2) 春季、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日

（神戸大学附属図書館自然科学系図書館利用規程の一部改正）

第2条 神戸大学附属図書館自然科学系図書館利用規程（昭和60年7月15日制定）の一部を次のように改正する。

第3条を次のように改める。

（開館時間）

第3条 図書館の開館時間は、次のとおりとする。

平日 午前9時から午後8時（春季、夏季及び冬季の休業期間中については午後5時）まで

土曜日 午前0時30分から午後3時30分まで
第4条中第5号を第6号とし、第2号から第4号までを1号ずつ繰り下げ、第1号の次に次の1号を加える。

(2) 春季、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日

（神戸大学附属図書館人文科学系図書室利用規程の一部改正）

第3条 神戸大学附属図書館人文科学系図書館利用規程（昭和60年7月15日制定）の一部を次の

ように改正する。

第3条を次のように改める。

（開館時間）

第3条 図書室の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 春季、夏季6及び冬季の休業期間中については、正午から午後1時までの間、カウンター業務及び書庫内検索を停止する。

第4条第1項第1号を次のように改める。

(1) 日曜日及び土曜日

（神戸大学附属図書館教育学部分館図書閲覧規程の一部改正）

第4条 神戸大学附属図書館教育学部分館図書閲覧規程（昭和29年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

第6条を次のように改める。

第6条 分館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、必要ある場合は変更することができる。

第7条第1項中「日曜日」を「日曜日及び土曜日」に改める。

（神戸大学附属図書館医学部分館利用規程の一部改正）

第5条 神戸大学附属図書館医学部分館利用規程（昭和62年3月23日制定）の一部を次のように改正する。

第3条を次のように改める。

（開館時間）

第3条 分館の開館時間は、次のとおりとする。

平日 午前9時から午後9時（8月1日から8月31日までは午後5時）まで

土曜日 午後0時30分から午後3時30分まで
第4条第1項中第4号を第5号とし、第3号を第4号とし、第2号を第3号とし、第1号の次に次の1号を加える。

(2) 春季、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日

第4条第2項中「前項第4号」を「前項第5号」に改める。

（神戸大学附属図書館教養部分館利用規程の一部改正）

第6条 神戸大学附属図書館教養部分館利用規程（昭和63年1月14日制定）の一部を次のように改正する。

第3条を次のように改める。

（開館時間）

第3条 分館の開館時間は、次のとおりとする。
平日 午前9時から午後8時（春季、夏季及び冬季の休業期間中については午後5時）まで

土曜日 午後0時30分から午後3時30分まで
第4条中第5号を第6号とし、第2号から第4号までを1号ずつ繰り下げ、第1号の次に次の1号を加える。

(2) 春季、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日

第4条第2項中「前項第5号」を「前項第6号」に改める。

附 則

この規程は、平成4年6月23日から施行し、改正後の神戸大学附属図書館人文・社会科学系図書館利用規程等の規定は、平成4年5月1日から適用する。



◇異動

| 所属部局官職 | 氏名 | 発令月日 | 異動内容 (異動前の所属官職) |
|---|-------------------------|----------------------|--------------------------------------|
| 事務局 〔庶務部〕 (人事課) | 羽室 秀樹 | 7. 1 | 出向〔文部省大臣官房文教施設部指導課監理室〕(文部事務官) |
| バイオフィシカル 研究センター センター長 | 西塚 泰美 | 6. 8 | 併任(医学部教授) |
| 文学部 事務補佐員 | 寺田 祐子 原田 泰子 | 7. 1 6.30 | 採用 辞職(事務補佐員) |
| 教育学部 (教育実践 研究指導 センター) センター長 | 中島 和 一 | 6. 8 | 併任(教育学部教授) |
| 経済学部 臨時事務員 | 岡本 竹男 | 7. 1 | 採用 |
| 理学部 教授 | 赤坂 一之 | 7. 1 | 昇任(京大大学院理学部助教授) |
| 医学部 助手 | 菊池 章 中村 毅 | 7. 1 " | 休職(講師) 転任(神戸刑務所 医務部医療課長) |
| " | 朝比奈 宏 中村 昭範 | 6.16 7. 1 | 採用 出向〔国立水俣 病研究センター 臨床部〕(助手) |
| 事務補佐員 | 山口 俊昌 廣瀬 美保 前尾 美貴 | 6.30 6.16 6.15 | 辞職(助手) 採用 辞職(事務補佐員) |

| | | | | |
|-------------|---------------|-------|------|-------------------------------|
| (管理課) | 事務補佐員 | 下南恵子 | 7.1 | 採用 |
| | | 嘉納知子 | 6.30 | 辞職(事務補佐員) |
| (学務課) | 事務補佐員 | 西尾裕美子 | 7.1 | 採用 |
| | | 中尾幹 | 7.1 | 6月30日限り退職(事務補佐員) |
| (医事課) | 入院掛 調査統計主任 | 湯村敏行 | 6.16 | 職務復帰 配置換(文学部教 務学生掛学生主任) |
| | | 井村和彦 | " | 専従(入院掛社保 計算主任) |
| | 事務補佐員 | 川上理恵 | 7.1 | 採用 |
| | | 山平晃子 | 6.30 | 辞職(事務補佐員) |
| 医学部 附属病院 | 助手 | 木下芳一 | 7.1 | 採用 |
| | | 頃末和良 | " | " |
| | | 山下真寿男 | 6.15 | 辞職(助手) |
| | | 宮崎直之 | 6.30 | "(") |
| | | 大谷徹郎 | " | "(") |
| (中央 検査部) | 技術補佐員 | 岡崎葉子 | 6.8 | 配置換(技能補佐 員) |
| (薬剤部) | | 梅田常雄 | 6.30 | 死亡(副薬剤部長) |
| | 技術補佐員 | 船越順子 | 6.8 | 配置換(技能補佐 員) |
| | | 朝日貴代 | 6.30 | 辞職(" ") |
| (看護部) | 看護婦長 | 正木和子 | 7.1 | 昇任(副看護婦長) |
| | | 高林澄子 | 6.30 | 辞職(看護婦長) |
| | 副看護婦長 | 有田瑞江 | 7.1 | 昇任(看護婦) |
| | | " | " | "(") |
| | | 三浦俊子 | " | "(") |
| | | 松尾八枝子 | 6.30 | 辞職(副看護婦長) |
| | 助産婦 | 東真優美 | 6.16 | 配置換(看護婦) |
| | | 長谷川桂子 | 6.15 | 辞職(助産婦) |

| | | | |
|---------------|-------|------|----------------------------|
| 看護婦 | 長田好美 | 6.16 | 職務復帰 |
| " | 船倉友紀 | 7.1 | 採用 |
| " | 川原ゆりか | " | " |
| " | 山口典子 | " | " |
| " | 大久保公恵 | 6.2 | 臨時的任用 |
| | 中村景子 | " | 育児休業(看護婦) |
| | 吉野みどり | 6.30 | 辞職(" ") |
| | 岡田眞理 | 6.30 | "(技術補佐員) |
| 工学部 | | | |
| 講師 | 田畑稔 | 7.1 | 採用 |
| 助手 | 呉松保男 | " | 昇任(文部技官) |
| | 清水則一 | " | 出向[山口大学工 学部助教授](助 手) |
| | 山田隆 | 6.21 | 辞職(助手) |
| 事務補佐員 | 古東孝子 | 7.1 | 採用 |
| | 藤原信子 | 6.30 | 辞職(事務補佐員) |
| 大学院文化 学研究科 | | | |
| 助手 | 中島和歌子 | 7.1 | 採用 |

◇研修等

*平成4年人事院式監督者研修(JST基本コース)

期間 平成4年6月16日~6月18日

会場 自然科学系図書館

共催 兵庫県下国立学校等

| | |
|----------------|-------|
| 施設部企画課企画掛長 | 二杉博隆 |
| " 建築課第一工営掛長 | 山本潮 |
| 厚生課寮務掛長 | 水谷博 |
| 附属図書館情報サービス課 | |
| 情報サービス第四掛長 | 池川敏 |
| 附属図書館情報サービス課 | |
| 情報サービス第六掛長 | 木下伸介 |
| 教育学部附属養護学校事務掛長 | 正井樹 |
| 法学部第二課程掛長 | 泉和彦 |
| 医学部学務課大学院学生掛長 | 石岡喜久子 |
| 医学部医事課栄養掛主任栄養士 | 土江節子 |
| 医学部附属病院中央検査部 | |
| 臨床検査主任技師 | 五百蔵守 |
| 医学部附属病院中央放射線部 | |
| 診療放射線主任技師 | 岸秀樹 |
| 医学部附属病院看護部看護婦長 | 橋本恵子 |
| " " " | 光本薫 |
| 教養部第二課程掛長 | 原實 |
| 経済経営研究所庶務掛長 | 湯浅隆文 |
| 総合情報処理センター業務掛長 | 和田明 |

*平成4年度国立学校事務電算化基幹要員

研修会(A)

期間 平成4年6月16日~6月25日

会場 国立オリンピック記念青少年
総合センター

主催 文部省

参加者 経理部経理課

給与掛長 立花 渉

*第26回近畿地区JST基本コース指導者養成研修

期間 平成4年6月18日~6月25日

会場 大阪合同庁舎第2号館別館5階
共用会議室

共催 人事院近畿事務局

参加者 経済学部事務長補佐 坂元 敏恭



◇海外渡航

| 所属 | 職名 | 氏名 | 渡航先 | 渡航目的 | 渡航期間 | 備考 |
|------|-------------------------|--------|------------------------------|--|----------------------|----|
| 法学部 | 教授 | 官澤 節生 | メキシコ | 国際法社会学会年次大会出席 | 4. 6. 28 4. 7. 5 | 出張 |
| 経済学部 | " | 大野喜久之輔 | ロシア連邦 | 比較経済論及びロシア経済に関する資料収集 | 4. 6. 1 4. 6. 8 | 研修 |
| " | " | 天野 雅敏 | ドイツ連邦共和国 | エアフルト国際ウォード会議に出席 | 4. 6. 2 4. 6. 11 | " |
| " | 助教授 | 滝川 好夫 | 大韓民国 | K I S D I 第4回国際会議に出席及び研究発表 | 4. 6. 25 4. 6. 28 | 出張 |
| " | 教授 | 大谷 一博 | ニュージーランド オーストラリア | 計量経済学及び統計学の理論に関する研究 | 4. 6. 30 4. 8. 25 | " |
| 経営学部 | " | 加護野忠男 | 連合王国 | 日本型経営に関するコンファレンス出席及び企業戦略に関する資料収集 | 4. 6. 6 4. 6. 12 | " |
| " | 助教授 | 正司 健一 | フランス アメリカ合衆国 連合王国 | 第6回国際交通学会参加・報告及び都市交通の運営に関する資料収集 | 4. 6. 28 4. 7. 8 | " |
| 理学部 | 教授 (附属 実験 所長) | 榎本 幸人 | イタリア | 地中海産海産緑藻類の分類学的研究のため | 4. 6. 25 4. 7. 9 | 研修 |
| " | " | 向井 正 | ドイツ連邦共和国 チェコスロバキア | イン石及びその母天体に関する国際研究会及び彗星中心核国際研究会に出席並びに惑星間塵に関する共同研究のため | 4. 6. 27 4. 7. 21 | " |
| 医学部 | 助教授 | 藤田 勝三 | チェコスロバキア イタリア ドイツ連邦共和国 | 国際小児脳神経外科学会、脳血管奇形の治療に関する国際会議及び第1回国際頭蓋底外科学会出席のため | 4. 6. 3 4. 6. 21 | 出張 |
| " | 助手 | 江原 一雅 | " | " | " | " |
| " | 教授 (附属 動物 施設長) | 松村 武男 | ケニア エジプト | 国際感染症学会出席及び熱帯医学・医動物学に関する資料収集のため | 4. 6. 6 4. 6. 20 | 研修 |
| " | " | 河野 通雄 | オーストリア | 胸部放射線医学出席及び放射線医学に関する情報交換のため | 4. 6. 9 4. 6. 17 | 出張 |
| " | 助手 | 上田 正登 | アメリカ合衆国 | 第18回世界皮膚科学会出席のため及び皮膚発癌に関する研究打合せのため | 4. 6. 9 4. 6. 20 | 研修 |
| " | " | 林部 一人 | " | 第18回世界皮膚科学会出席及び悪性黒色腫の免疫療法に関する研究交換のため | 4. 6. 11 4. 6. 27 | " |
| " | 助教授 | 市橋 正光 | アメリカ合衆国 カナダ | 第18回国際皮膚科学会出席及び光線過敏症の新治療法に関する情報交換のため | 4. 6. 12 4. 6. 21 | 出張 |
| " | 助手 | 斎藤 公明 | スペイン | 第14回国際高血圧学会出席のため | 4. 6. 12 4. 6. 20 | 研修 |
| " | 教授 | 山本 節 | 連合王国 | 先天白内障シンポジウムに出席及び眼科学に関する研究交換のため | 4. 6. 16 4. 6. 23 | " |

| | | | | | | |
|-----|-----|-------|----------------|--|----------------------|----|
| 医学部 | 助手 | 塚原 康友 | 連合王国 | 先天白内障シンポジウムに出席及び眼科学に関する研究交換のため | 4. 6. 16 4. 6. 23 | 研修 |
| " | " | 足立 順子 | " | 第6回国際アルコール医学生物会議出席及びアルコール医学に関する研究交換のため | 4. 6. 17 4. 6. 29 | " |
| " | 教授 | 高井 義美 | 大韓民国 | 生化学研究に関する情報交換のため | 4. 6. 18 4. 6. 21 | 出張 |
| " | 助手 | 天野 和彦 | アメリカ合衆国 カナダ | 第52回アメリカ糖尿病学会出席と内科学に関する研究交換のため | 4. 6. 19 4. 6. 29 | 研修 |
| " | 教授 | 斎藤 洋一 | イタリア フランス | 第3回国際消化器外科学会出席及び消化器外科に関する研究交換のため | 4. 6. 21 4. 7. 3 | " |
| " | 助手 | 乾 明夫 | アメリカ合衆国 | 第74回アメリカ内分泌学会に出席のため | 4. 6. 22 4. 6. 28 | " |
| " | 助教授 | 山本 正博 | イタリア | 第3回国際ガストロ・サージカルクラブ会議出席のため | 4. 6. 23 4. 6. 29 | 出張 |
| " | 講師 | 具 英城 | " | " | " | " |
| " | 助手 | 宮崎 直之 | " | " | " | " |
| " | 講師 | 西野 直樹 | フランス スペイン | 第18回国際神経精神薬理学会出席及び精神医学に関する研究交換のため | 4. 6. 25 4. 7. 5 | 研修 |
| " | 教授 | 尾原 秀史 | 大韓民国 | 大韓民国麻酔学会出席のため | 4. 6. 26 4. 6. 28 | " |
| " | 講師 | 黒坂 昌弘 | " | Kyung Hee 大学20周年記念講演会に出席のため | 4. 6. 26 4. 6. 30 | " |
| " | " | 田原 真也 | スペイン | 第10回世界形成外科学会参加のため及び耳鼻咽喉学に関する研究交換のため | 4. 6. 26 4. 7. 8 | " |
| " | 助手 | 金田 弘幸 | フランス イタリア | 第18回国際神経精神薬理学会出席及び神経内分泌に関する研究交換のため | 4. 6. 26 4. 7. 5 | " |
| " | 教授 | 田中千賀子 | フランス | 第18回国際精神神経薬理学会出席及び薬理学に関する研究交換のため | 4. 6. 27 4. 7. 6 | 出張 |
| " | 助手 | 李 正剛 | フランス イタリア | 第18回国際精神神経薬理学会出席、国際毒物学会 (Satellite meeting) 出席及び薬理学に関する研究交換のため | 4. 6. 27 4. 7. 12 | 研修 |
| " | 教授 | 伊東 宏 | 大韓民国 | 小児病理学に関する研究交換のため | 4. 6. 29 4. 7. 1 | 出張 |
| 工学部 | " | 櫻井 春輔 | フィンランド | 岩盤内の地下空間利用に関する資料収集並びに討議及び地下音楽堂の音響及び換気の調査 | 4. 6. 2 4. 6. 9 | 研修 |

| | | | | | | |
|---------------|-----|-------|----------------------|--|----------------------|-----|
| 工学部 | 助教授 | 宮本 文徳 | 連合王国 | 第2回衝撃作用を受ける構造物に関する国際会議出席及び衝撃問題に関する研究交換 | 4. 6.13 } 4. 6.24 | 研 修 |
| " | 教 授 | 上田 完次 | アメリカ合衆国 | 第3回A-Life(人工生命)に関する会議出席及び知的生産システムに関する研究交換 | 4. 6.14 } 4. 6.20 | 出 張 |
| " | " | 高田 至郎 | " | アメリカ機械学会圧力配管会議出席及び都市地震防災に関する研究交換 | 4. 6.21 } 4. 6.27 | 研 修 |
| " | " | 藤井 進 | 大韓民国 | システム・シミュレーションに関する研究交換 | 4. 6.22 } 4. 6.25 | 出 張 |
| " | " | 中西 英二 | イタリア フランス ベルギー | 第12回反応工学国際シンポジウム出席及びプロセス制御に関する研究交換 | 4. 6.25 } 4. 7.10 | 研 修 |
| " | 助教授 | 中岡 睦雄 | 連合王国 スペイン | 第23回パワーエレクトロニクス国際会議出席及び電気エネルギー変換システムと制御に関する研究交換 | 4. 6.26 } 4. 7. 7 | 出 張 |
| 農学部 | 助 手 | 末吉 邦 | アメリカ合衆国 | 硝酸還元酵素の発現制御機構に関する研究 | 4. 6. 1 } 5. 5.31 | " |
| " | 教 授 | 大川 秀郎 | " | 環太平洋食糧及び農業バイオテクノロジー会議出席・発表 | 4. 6.16 } 4. 6.28 | " |
| " | " | 津川 兵衛 | フィリピン | ピナツポ火山被災地植生回復状況調査, 研究 | 4. 6.19 } 4. 6.21 | 研 修 |
| " | 助教授 | 金沢 和樹 | イタリア スイス | 「栄養学におけるフリーラジカル」シンポジウムで講演及び微量栄養素に関する研究打合せ | 4. 6.21 } 4. 6.27 | 出 張 |
| " | 教 授 | 相菌 泰生 | 中華人民共和国 | 第19回国際昆虫学会出席・発表及び機能タンパク質に関する研究交換 | 4. 6.27 } 4. 7. 9 | " |
| " | 助教授 | 内藤 親彦 | " | 第19回国際昆虫学会出席・発表及び昆虫系統分類に関する研究交換 | 4. 6.28 } 4. 7. 6 | 研 修 |
| 教養部 | " | 山口 泰雄 | ドイツ連邦共和国 | 「国際伝統スポーツフェスティバル・シンポジウム」への出席及び研究発表のため | 4. 6.24 } 4. 7. 1 | 出 張 |
| 経済経営 研究所 | " | 井澤 秀記 | フランス スイス イタリア | 国際決済銀行のBIS規制に関してスタッフとの会合及び資料収集のため | 4. 6.15 } 4. 6.30 | 研 修 |
| 自然科学 研究科 | 助 手 | 柏谷 健二 | チェコスロバキア 連合王国 | 地形学における周期性に関する国際シンポジウム出席および侵食環境に関する交換 | 4. 6.10 } 4. 6.25 | " |
| " | " | 池上 高志 | アメリカ合衆国 | 人工生命Ⅲワークショップ及び計算プロセスとしての進化ワークショップ出席 | 4. 6.13 } 4. 6.28 | " |
| 医療技術 短期大学部 | 教 授 | 古川 宏 | アメリカ合衆国 カナダ | 第7回国際義肢装具学会(ISPO)出席及びアメリカ合衆国・カナダにおける義肢装具リハビリテーションについての意見交換 | 4. 6.27 } 4. 7.12 | " |

学 事

◇学位授与

6月3日(水)午後2時から大会議室において博士(学術), 博士(理学), 博士(医学), 博士(工学), 博士(農学)及び博士(商学)の学位記授与式を行いました。学位を授与された者の氏名, 論文題目等は次のとおりです。



| 氏 名 | 学位の種類 | 授与年月日 | 論 文 題 目 |
|---------|-----------------|-----------|---|
| 王 又 暢 | 博士(学術) (課 程) | 平成4年3月31日 | HIGH RESOLUTION LASER SPECTROSCOPY ON THE STRUCTURE AND DYNAMICS OF ALKALI METAL MOLECULES (高分解能レーザー分光法によるアルカリ金属分子の構造とダイナミクスに関する研究) |
| 高 橋 邦 雄 | " | " | 回転式 Weis-Fogh 型ポンプの特性に関する研究 |
| 山 口 増 美 | " | " | 中国都市の土地・住宅政策に関する基礎的研究 |
| 李 暎 一 | " | " | 建築・環境計画における場所性の形成に関する研究 |
| 盧 莘 明 | " | " | 東アジアの集住形態に関する研究 - 伝統的集住における空間と生活の実証を通じて - |
| 桑 野 満 博 | 博士(理学) (課 程) | " | A Measurement of Forward-Backward Charge Asymmetry in Hadronic Decays of Z^0 (Z^0 粒子のハドロン崩壊における前後方荷電非対称性の測定) |
| 林 茂 彦 | " | " | Epitaxial Growth and Molecular Orientation of Porphyrin Thin Films and Orientation Effect on Photovoltaic Properties (ポルフィリン薄膜のエピタキシャル成長と分子配向および光電変換特性におよぼす配向の効果) |
| 足 立 泰 久 | " | " | 古地磁気から解明する中国の地殻構造発達史 |
| 糸 田 千 鶴 | " | " | A Geomagnetic Secular Variation Study by Separation of A Field Variation into Its Spectral Components (変動成分分離による地磁気永年変化の研究) |
| 黒 木 康 雄 | 博士(医学) (課 程) | " | CONSTITUTIVE EXPRESSION OF c-fos GENE INHIBITS TYPE I COLLAGEN SYNTHESIS IN TRANSFECTED OSTEOBLASTS (c-fos遺伝子導入による骨芽細胞におけるtype I collagen合成抑制作用) |
| 後 藤 章 暢 | " | " | Cisplatin adsorbed to activated carbon particles as a new drug delivery system for anticancer effect on human bladder cancer cell lines (Drug delivery systemを利用した活性炭吸着シスプラチン製剤の抗腫瘍効果の基礎的検討) |

| | | | |
|------|----------------|-----------|---|
| 石井紀孝 | 博士(医学) (課程) | 平成4年3月31日 | ヒト悪性黒色腫担癌患者により強く認識される黒色腫抗原蛋白mRNAの良性および悪性色素細胞腫瘍細胞における発現度解析 |
| 西井弘 | " | " | 1) Studies on the Nuclear 3,5,3-Triiodo-L-Thyronine Binding Sites in Cytotrophoblast (cytotrophoblastにおける核内甲状腺ホルモン受容体についての研究) 2) Studies on the Effect of thyroid Hormone and Epidermal Growth Factor on the Cultured Human Cytotrophoblast (培養ヒト cytotrophoblast に与える甲状腺ホルモンおよび上皮性成長因子の効果についての研究) |
| 大橋玉基 | " | " | 高濃度酸素及びテキサメサゾンのラット肺サーファクタントに及ぼす影響 |
| 今西治 | " | " | Androgenic regulation of enzymes involved in DNA synthesis in epididymis of young rats (幼若ラット精巣上体におけるDNA合成関連酵素のアンドロゲンによる調節について) |
| 西村俊二 | " | " | Post-inhibitory excitation of adenosine on neurotransmission in guinea pig hippocampal slices (モルモット海馬切片におけるアデノシンの抑制後興奮作用) |
| 小野成夫 | " | " | LA PIACE DES PATHOLOGIES SOMATIQUES CHEZ LE SUJET HOSPITALISÉ EN UNITÉ AIGUË DE PSYCHOGERIATRIE (老年精神科急性期病棟患者に於ける身体疾患の位置) |
| 平松晋介 | " | " | 顆粒膜細胞の増殖、分化のEpidermal Growth Factor(EGF)によるAutocrine調節 |
| 上野洋 | " | " | COMPARISON OF ECHOCARDIOGRAPHIC AND ANATOMIC MEASUREMENTS OF THE LEFT VENTRICULAR WALL THICKNESS (左室壁厚計測に関する心エコー法の問題点-剖検心における検討-) |
| 堀裕一 | " | " | FUNCTION OF THE POST-TRANSLATIONALLY MODIFIED C-TERMINAL REGION OF rho p21 (rho蛋白質のC末端領域の翻訳後修飾の役割) |
| 山本武司 | " | " | THE STIMULATORY GDP/GTP EXCHANGE PROTEIN FOR ras p21-RELATED SMALL GTP-BINDING PROTEINS (ras p21類似低分子量GTP結合蛋白質のGDP/GTP交換反応促進蛋白質) |
| 常石秀市 | " | " | REGULATION OF NEURITE OUTGROWTH THROUGH PROTEIN KINASE C AND PROTEASE NEXIN-1 IN NEUROBLASTOMA CELL (神経芽細胞腫におけるプロテイン・キナーゼC及びプロテアーゼ・ネキシン-1を介した神経突起伸長制御の検討) |
| 尾家伸之 | " | " | A NOVEL TYPE OF REGULATORY PROTEIN FOR THE GDP/GTP EXCHANGE REACTION OF rho p21. A ras p21-LIKE SMALL GTP-BINDING PROTEIN IN RABBIT INTESTINE (ウサギ小腸における低分子量G蛋白質 rho p21の活性制御蛋白質) |
| 陳明裕 | " | " | 低出力レーザー除痛効果の新しい臨床応用とその基礎生物学的研究 |

| | | | |
|-----------|----------------|-----------|---|
| 康海偉 | 博士(工学) (課程) | 平成4年3月31日 | 電鍍鋼管材の材料特性と座屈挙動 |
| 清水陽一郎 | " | " | 微生物反応プロセスの適応制御に関する研究 |
| 杉浦直人 | 博士(農学) (課程) | " | ハキリバチ2種における親の投資と性配分に関する生態学的研究 |
| 白石善章 | 博士(商学) (論文) | 平成4年5月13日 | 流過程における重層的競争の研究 |
| 山口照英 | 博士(理学) (論文) | 平成4年4月24日 | 白血球のNADPH酸化酵素に関する生化学的研究 |
| 野木義史 | " | " | 南インド洋東エンダビー海盆の地磁気3成分異常 |
| 中村晃 | 博士(医学) (論文) | 平成4年3月21日 | Mechanism of inhibitory action of prostaglandins on the growth of human gastric carcinoma cell line KATO III (ヒト胃癌培養細胞KATO IIIの増殖に及ぼす各種 Prostaglandinの影響並びにその作用秩序についての検討) |
| 庄瀬祥晃 | " | " | 成人髄液循環障害における脳血液循環動態の検討 |
| 衣笠万里 | " | 平成4年4月8日 | 子宮頸癌における領域リンパ節の免疫学的意義に関する病理組織学的検討 子宮頸癌領域リンパ節におけるリンパ球サブセットの出現態度とその免疫学的意義に関する検討 |
| Sunartini | " | " | THYROID FUNCTION IN NEWBORN INFANTS FROM GOITROUS AND NON GOITROUS MOTHERS (甲状腺腫及び非甲状腺腫の母親からの出生児における甲状腺機能) |
| 鬼一有宏 | " | 平成4年5月13日 | 心臓麻酔導入時の循環動態に関する研究 フェンタニール急速導入法と緩徐導入法との比較について |
| 黒田大介 | " | " | 食道癌化学療法に関する実験的研究 -脂質・界面活性剤混合ミセルおよびデキストラン流酸によるリンパ指向性の増大とリンパ節転移抑制- |
| 橋本可成 | " | " | Peptide YYの胃酸分泌抑制機序 |
| 兼森祐治 | 博士(工学) (論文) | 平成4年4月24日 | ターボポンプの振動と安定性に及ぼす長いシールの動的流体力の影響に関する研究 |
| 大橋昭 | " | " | カプセル流体輸送に関する研究 |
| 趙成和 | " | " | 工作機械の熱変化とその抑制に関する研究 |
| 河野昭子 | 博士(農学) (論文) | " | マメ科植物発芽種子中の α -、及び β -アミラーゼの量的変動と電気泳動的特性 |
| 吉倉惇一郎 | " | " | 野菜生産における有機質資材の施用効果と土壌微生物活性に及ぼす影響に関する研究 |

◇在籍学生数調（平成4年5月1日現在）

◎学部

| 学部名 | 入学定員 | 総定員 | 在籍者数 |
|--------|-------------|--------|----------------|
| 文学部 | 135 (20) | 510 | 542 (309) |
| 教育学部 | 420 | 1,680 | 1,751 (1,001) |
| 法学部 | 230 (30) | 920 | 1,047 (289) |
| 第二課程 | 60 | 360 | 402 (102) |
| 3年次編入学 | 20 | | |
| 経済学部 | 280 (30) | 1,100 | 1,204 (190) |
| 第二課程 | 60 | 360 | 418 (65) |
| 3年次編入学 | 20 | | |
| 経営学部 | 270 (30) | 1,080 | 1,174 (169) |
| 第二課程 | 70 | 350 | 403 (70) |
| 理学部 | 165 (25) | 630 | 657 (128) |
| 医学部 | 100 | 640 | 655 (148) |
| 工学部 | 620 (110) | 2,480 | 2,744 (143) |
| 農学部 | 185 (25) | 740 | 756 (260) |
| 合計 | 2,665 (270) | 10,850 | 11,753 (2,874) |

(注) 入学定員の () は臨時増募を、在籍者数の () は女子をそれぞれ内数で示す。

◎大学院

| 研究科名 | 修士(博士前期) | | | 博士(博士後期) | | |
|---------|----------|-------|-------------|----------|-----|-----------|
| | 入学定員 | 総定員 | 在籍者数 | 入学定員 | 総定員 | 在籍者数 |
| 文学研究科 | 50 | 100 | 80 (36) | | | |
| 教育学研究科 | 70 | 140 | 156 (78) | | | |
| 法学研究科 | 50 | 100 | 37 (10) | 23 | 69 | 50 (9) |
| 経済学研究科 | 51 | 102 | 39 (11) | 26 | 78 | 43 (7) |
| 経営学研究科 | 56 | 112 | 69 (9) | 26 | 78 | 35 (5) |
| 理学研究科 | 50 | 100 | 138 (17) | | | |
| 医学研究科 | | | | 62 | 248 | 272 (40) |
| 工学研究科 | 150 | 300 | 535 (33) | | | |
| 農学研究科 | 58 | 116 | 111 (14) | | | |
| 文化学研究科 | | | | 13 | 39 | 85 (32) |
| 自然科学研究科 | | | | 46 | 138 | 173 (16) |
| 合計 | 535 | 1,070 | 1,165 (208) | 196 | 650 | 658 (109) |

(注) 在籍者数の () は、女子を内数で示す。

◎別科

| 別科名 | 入学定員 | 在籍者数 |
|----------|------|---------|
| 養護教諭特別別科 | 40 | 34 (34) |

(注) 在籍者数の () は、女子を内数で示す。

◎教育学部附属学校

| 学校名 | 学級数 | 在籍者数 |
|---------|--------|------------|
| 附属住吉小学校 | 18 (3) | 655 (15) |
| 附属明石小学校 | 12 | 465 |
| 附属住吉中学校 | 9 (3) | 376 (32) |
| 附属明石中学校 | 9 | 378 |
| 附属幼稚園 | 5 | 173 |
| 附属養護学校 | 9 | 60 |
| 合計 | 62 (6) | 2,107 (47) |

(注) 学級数の () は、帰国子女教育学級を外数で示す。
在籍者数の () は、帰国子女を外数で示す。

◎医療技術短期大学部

| 学科名 | 入学定員 | 総定員 | 在籍者数 |
|--------|------|-----|-----------|
| 看護学科 | 80 | 240 | 254 (251) |
| 衛生技術学科 | 40 | 120 | 124 (119) |
| 理学療法学科 | 20 | 60 | 69 (43) |
| 作業療法学科 | 20 | 60 | 73 (60) |
| 合計 | 160 | 480 | 520 (473) |

(注) 在籍者数の () は、女子を内数で示す。

◇平成5年度入学選抜方法等の決定
 平成5年度神戸大学、神戸大学医療技術短期大学部の入学選抜方法等を次のとおり決定しました。
 なお、募集要項等については、10月上旬(短大)、11月中旬(大学)までに発表します。

平成5年度 神戸大学入学選抜方法等

| 選抜方法等 学部・学科名 | 個別学力検査等 | | | 推薦入學 | | | 推薦入學 | | | 特別選抜 | 備考 (欠員の補充の方法等) | | |
|------------------------------|----------------------------|---------------------|--|------------------------|---|---|---|---|---------|------|-------------------|---|---------|
| | 実技検査等 | | 2段階選抜 | 推薦入學 | | 推薦入學 | 推薦入學 | | 個別学力検査等 | | | 実技検査等 | 個別学力検査等 |
| | 面接 実技 検査 を課 する | 小論 文を 課す る | 主として、調査 書の内容と大学 入試センター試 験の成績により 第1段階選抜を 行い、その合格 者について更に 必要な検査等 を行う | 第1段階の 選抜による 合格者数 | 推薦入學 力検査 を免除 し、入試 センター 試験を 免除す る | 推薦入學 力検査 を免除 し、入試 センター 試験を 免除す る | 推薦入學 力検査 を免除 し、入試 センター 試験を 免除す る | 推薦入學 力検査 を免除 し、入試 センター 試験を 免除す る | | | | | |
| 文学部 | ○ | ○ | ○ | 約1.5倍 | × | × | × | × | × | × | × | ○欠員の補充について 11月中旬発表予定の 「募集要項」に記載 する。 | |
| 国際文化学部 | ○ | ○ | ○ | 約1.5倍 | × | × | × | × | × | × | × | ○志望学科等の取扱い ・国際文化学部は、 第二志望も志願す ることができ る。 | |
| 発達科学部 | ○(11) | ○(11) | ○(11) | 約1.5倍 | × | × | × | × | ○ | × | × | ・理学部前期日程の 化学科・地球科学 科は第二志望も志 願することができ る。 | |
| 法学部 | ○ | ○ | ○ | 約1.5倍 | × | × | × | × | ○ | × | × | ・農学部は第二志 望、第三志望も志 願することができ る。 | |
| 経済学部 | ○ | ○ | ○ | 約1.5倍 | × | × | × | × | ○ | × | × | | |
| 経営学部 | ○ | ○ | ○ | 約1.5倍 | × | × | × | × | ○ | × | × | | |
| 理学部 | ○ | ○ | ○ | 約1.5倍 | × | × | × | × | ○ | × | × | | |
| 医学部 | ○ | ○ | ○ | 約1.5倍 | × | × | × | × | ○ | × | × | | |
| 工学部 | ○ | ○ | ○ | 約1.5倍 | × | × | × | × | ○ | × | × | | |
| 農学部 | ○ | ○ | ○ | 約1.5倍 | × | × | × | × | ○ | × | × | | |
| 法学部 経済学部 経営学部 各第二課程 | × | × | × | × | × | ○ | × | ○ | 各20人 | × | × | | |

各欄の○印は該当するものを、×印は該当しないものを表わす。
 (注1) 全学科に課す。
 (注2) 人間行動・表現学科に課す。
 (注3) 人間環境科学科の理科系数学受験コースに課す。
 (注4) 人間行動・表現学科に課す。
 (注5) 人間発達科学科及び人間環境科学科の文科系小論文受験コース、理科系小論文受験コースに課す。

(注6) 物理学科及び地球科学科を志望する者に対して課す。
 (注7) 発達科学部(人間行動・表現学科)の実技検査は、前期日程2月26日・2月27日、後期日程3月12日・3月13日に実施する。
 (注8) 第二課程推薦入学の「その他」は、簡単な英語のテストの実施を表わす。

特別選抜方法 (推薦入學)

| 実施学部・学科名 | 経済学部 |
|--------------|--|
| 募集人員 | 50人 |
| 選抜期日 選抜方法 | 高等学校長の推薦に基づき、推薦書・調査書及び自己推薦書の内容、大学入試センター試験の成績、健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。 個別学力検査等は免除する。 |
| 出願期間 | 平成4年12月21日(月)から平成4年12月28日(月)まで。(締切当日の消印有効) |
| 出願要件 | 1 推薦の要件 高等学校を平成4年3月卒業又は平成5年3月卒業見込みの者で次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもつて推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値が4.0以上の者 (2) 平成5年度大学入試センター試験の5教科を受験する者 (3) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり2名以内とする。 |
| その他 | 1 合格発表 平成5年2月10日(水) 午後1時 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成4年11月中旬発表予定)は、経済学部学生掛(〒657神戸市灘区甲台町2-1)において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部推薦入學募集要項請求」と書き、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手250円を貼付した返信用封筒(角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm)を同封して請求すること。 |

| 実施学部・学科名 | 法学部・経済学部・経営学部各第二課程 |
|--------------|---|
| 募集人員 | 各学部とも20人 |
| 選抜期日 選抜方法 | 入学者選抜は、推薦書、調査書等によるほか簡単な英語のテスト及び面接により行う。 期 日 平成5年1月6日(木) |
| 出願期間 | 平成4年12月17日(木)から平成4年12月25日(金)まで。(締切当日の消印有効) |
| 出願要件 | 1 推薦の要件 高等学校を卒業した者及び平成5年3月卒業見込みの者で調査書の学習成績概算がAであり、本学部第二課程入學を第一志望とし、かつ、在学中定職に就き観望する者に限る。 2 推薦人員 各学部とも1校当たり3名以内とする。 |
| その他 | 1 合格発表 平成5年1月18日(月) 午後1時(予定) 2 学生募集要項請求方法 募集要項(平成4年11月中旬発表予定)は、各学部第二課程掛(〒657神戸市灘区六甲台町2-1)において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「〇〇学部第二課程推薦入學募集要項請求」と書き、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手250円を貼付した返信用封筒(角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm)を同封して請求すること。 3 その他 推薦入學志願者で、推薦による入学者選抜の結果不合格になった場合でも、本学部第二課程の一般選抜に出願することができる。この場合、大学入試センター試験はそれぞれ指定された4教科を受験しなければならない。 なお、一般選抜の出願を希望する者は、改めて出願手続を行うこと。 |

特別選抜入学（帰国子女特別選抜）

| 実施学部・学科名 | 経済学部 | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------|-----|----------|-----|-------------|-----|------------|--|----------|-------------|--|-----|--------|
| 募集人員 | 若干名 | | | | | | | | | | | | | |
| 入学者選抜は、第1次選考、第2次選考及び健康診断により行う。 | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 第1次選考 出願書類を資料として、選考を行う。 選考の結果は、平成4年11月25日(水)に郵送により志願者全員に通知する。 | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 第2次選考 第1次選考の合格者全員に対し、基礎的学力と日本語の熟達度を測定するために、次のとおり筆記試験及び面接を行う。 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>期 日</th> <th>筆記試験及び面接</th> <th>時 間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成5年1月6日(水)</td> <td>英 語</td> <td>9:30-10:30</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小論文(日本語)</td> <td>10:40-11:40</td> </tr> <tr> <td></td> <td>面 接</td> <td>13:00-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 面接において数学の簡単なテストを行う。</p> | | 期 日 | 筆記試験及び面接 | 時 間 | 平成5年1月6日(水) | 英 語 | 9:30-10:30 | | 小論文(日本語) | 10:40-11:40 | | 面 接 | 13:00- |
| 期 日 | 筆記試験及び面接 | 時 間 | | | | | | | | | | | | |
| 平成5年1月6日(水) | 英 語 | 9:30-10:30 | | | | | | | | | | | | |
| | 小論文(日本語) | 10:40-11:40 | | | | | | | | | | | | |
| | 面 接 | 13:00- | | | | | | | | | | | | |
| (3) 健康診断 健康診断書により行う。なお、第1次選考合格者で精部検査を必要と認められた者に対しては、別途通知する。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 出願期間 平成4年10月29日(木)から平成4年11月9日(月)午後5時までに必需のこと。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 出願要件 日本国籍を有し、次のいずれかに該当する者。 (1) 外国において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を平成3年4月1日から平成5年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者。ただし、外国において、最終学年を含めて3年以上継続して学校教育を受けていること。 (2) 中学校・高等学校又は中学校、高等学校相当課程を通じ3年以上外国の学校で教育を受け、日本の高等学校在籍が1年以上あり、かつ、平成4年4月1日から平成5年3月31日までに日本又は外国の高等学校（又は高等学校相当課程）を卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者。 (3) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレア資格證書を平成3年度及び平成4年度に授けられた者で、平成5年3月31日までに18歳に達するもの。ただし、外国において、最終学年を含めて3年以上継続して学校教育を受けていること。 (注1) 大学入学資格に13年の期間を必要とする国の場合には、13年課程を卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者についてのみ受験を認める。 (注2) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 合格発表 平成5年1月20日(木)午後3時に神戸大学正門内側の経済学部掲示場に合格者名を掲示するとともに、第2次選考受験者全員に選考結果を郵送により通知する。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成4年7月下旬発表予定）は、経済学部学生冊（〒657神戸市灘区六甲台町2-1）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部外国学校出身者学生募集要項請求」と書し、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手250円を貼付した返信用封筒（角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm）を同封して請求すること。 ただし、受信者が外国に居住する場合には、航空郵便状130g料相当の国際郵便券を同封すること。 | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | | | | | |

| 実施学部・学科名 | 経営学部 | | | | | |
|--|---|--|-----|-------------|-----|-------------|
| 募集人員 | 若干名 | | | | | |
| 入学者選抜は、第1次選考、第2次選考及び健康診断により行う。 | | | | | | |
| (1) 第1次選考 出願書類を資料として用い、選考を行う。 選考の結果は、平成4年11月25日(水)に郵送により志願者全員に通知する。 | | | | | | |
| (2) 第2次選考 第1次選考の合格者に対し、英語及び面接を課して選考を行う。 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>期 日</th> <th>平成5年1月6日(水)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期 日</td> <td>平成5年1月6日(水)</td> </tr> </tbody> </table> | | 期 日 | 平成5年1月6日(水) | 期 日 | 平成5年1月6日(水) |
| 期 日 | 平成5年1月6日(水) | | | | | |
| 期 日 | 平成5年1月6日(水) | | | | | |
| (3) 健康診断 健康診断書により行う。その結果、第1次選考合格者で精部検査を必要と認められた者に対しては、別途通知する。 | | | | | | |
| 出願期間 平成4年10月29日(木)から平成4年11月9日(月)午後5時までに必需のこと。 | | | | | | |
| 出願要件 日本国籍を有する者で、両親等保護者の海外における就業によって、共に外国に在留し、次のいずれかに該当する者。 (1) 外国において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を平成3年4月1日から平成5年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者。ただし、外国において、最終学年を含めて2年以上継続して学校教育を受けていること。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレア資格證書を平成3年度及び平成4年度に授けられた者で、平成5年3月31日までに18歳に達するもの。 (注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。 | | | | | | |
| 1 合格発表 平成5年1月19日(火) | | | | | | |
| 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成4年7月下旬発表予定）は、経営学部教育学生冊（〒657神戸市灘区六甲台町2-1）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「帰国子女特別選抜募集要項請求」と書し、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手175円を貼付した返信用封筒（角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm）を同封して請求すること。 ただし、志願者が外国に居住する場合は、必ず国内の連絡者を通じて請求すること。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | |

特別選抜方法（社会人特別選抜）

| 実施学部・学科名 | 発達科学部 | |
|--|---------------------------|--------------|
| 募集人員 | 人間発達科学科、人間環境科学科、人間行動・表現学科 | |
| 入学者選抜は、第1次選抜、第2次選抜及び健康診断により行う。 (第2次選抜は第1次選抜合格者に課す。) | | |
| 期 日 第1次選抜：英語、小論文 第2次選抜：面接（口頭試問） | 平成4年11月11日(水) | 平成4年12月9日(水) |
| 出願期間 平成4年10月26日(月)から平成4年10月30日(金)まで。(締切当日の消印有効) | | |
| 出願要件 社会人（主婦を含む）としての経験を5年以上有し、入学の時点において満23歳以上の者で、次のいずれかに該当する者。 (1) 高等学校を卒業した者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第69条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者 | | |
| ※定期開通・通信制の高等学校に在学した期間は、社会人の経験期間に含まれる。 | | |
| 1 合格発表 第1次選抜 平成4年11月27日(金)午前10時(予定) 第2次選抜 平成4年12月18日(金)午前10時(予定) | | |
| 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成4年9月9日中旬発表予定）は、教育学部学生冊（〒657神戸市灘区船中3丁目11）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「発達科学部社会人特別選抜募集要項請求」と書し、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手250円を貼付した返信用封筒（角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm）を同封して請求すること。 | | |
| その他 | | |

| 実施学部・学科名 | 法学部 第二課程 | | | | | |
|---|---|--|-----|-------------|-----|-------------|
| 募集人員 | 若干名 | | | | | |
| 入学者選抜は、調査書・志望理由書等によるほか簡単な英語のテスト及び面接により行う。 | | | | | | |
| 選抜期日 選抜方法 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>期 日</th> <th>平成5年1月6日(水)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>期 日</td> <td>平成5年1月6日(水)</td> </tr> </tbody> </table> | | 期 日 | 平成5年1月6日(水) | 期 日 | 平成5年1月6日(水) |
| 期 日 | 平成5年1月6日(水) | | | | | |
| 期 日 | 平成5年1月6日(水) | | | | | |
| 出願期間 平成4年12月17日(木)から平成4年12月25日(金)まで。(締切当日の消印有効) | | | | | | |
| 出願要件 入学時に満23歳以上になる者で、次の各号のいずれかに該当する者。 1. 高等学校を卒業した者及び卒業見込みの者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び修了見込みの者 3. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者又はこれらに準ずる者で文部大臣の指定したものであるもの 4. 文部大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者 5. 文部大臣の指定した者 6. 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者及び合格見込みの者 | | | | | | |
| 1 合格発表 平成5年1月18日(月)午後1時(予定) | | | | | | |
| 2 学生募集要項請求方法 募集要項（平成4年10月下旬発表予定）は、法学部第二課程掛（〒657神戸市灘区六甲台町2-1）において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「法学部第二課程社会人特別選抜募集要項請求」と書し、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手250円を貼付した返信用封筒（角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm）を同封して請求すること。 | | | | | | |
| その他 | | | | | | |

【後期日程】

| 学部(学科, 課程, 専攻等)名 | | 入学志願者に解答させる 教科・科目名等 | 選抜の対象 | 大学入試センター試験で 入学志願者に解答させる教科・科目名 | 個別学力検査 の教科・科目等 | 大学入試センター 試験の利用方法 | その他の |
|------------------|-----------------------------|------------------------|-------------|--|--|---------------------|---|
| 経営学部 | 経済学部 | | | 国 社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「現代社会」を選択できる。 | 数(代数・幾何, 基礎解析) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC)] | | 個別学力検査等の出題方法について 数 学: 2科目合わせて出題し, 同一時間 内に解答させる。 |
| | 数学受験コース | | | 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」, 「工業数理」を修得した者又は支那大出の 指定を受けた専門学校高等課程の学科の修 了(見込み)者は「数Ⅰ」にかえて「簿記 会計」か「工業数理」を選択できる。 | 数(代数・幾何, 基礎解析) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC)] | | 個別学力検査等の出題方法について 数 学: 2科目合わせて出題し, 同一時間 内に解答させる。 |
| 工学部 | 建設工学科 | | | 理(物, 化, 生, 地学から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「理科Ⅰ」を選択できる。 | 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC)] | | 個別学力検査等の出題方法について 数 学: 4科目合わせて出題し, 同一時間 内に解答させる。 |
| | 電気電子工学科 応用化学科 情報知能工学科 | | | 理(物)と「化」 ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は「化学」にか えて「理科Ⅰ」を選択できる。 | 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC)] | | 個別学力検査等の出題方法について 数 学: 4科目合わせて出題し, 同一時間 内に解答させる。 |
| 農学部 | 工学部 | | 一般選抜の 全部 | 国 社(倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「現代社会」を選択できる。 | 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC)] | | 個別学力検査等の出題方法について 数 学: 4科目合わせて出題し, 同一時間 内に解答させる。 |

【注 意】備考を参照すること。

【後期日程】

| 学部(学科, 課程, 専攻等)名 | | 入学志願者に解答させる 教科・科目名等 | 選抜の対象 | 大学入試センター試験で 入学志願者に解答させる教科・科目名 | 個別学力検査 の教科・科目等 | 大学入試センター 試験の利用方法 | その他の |
|------------------|-------|------------------------|-------------|--|--|---------------------|---|
| 数化学部 | 数化学科 | | | 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」, 「工業数理」を修得した者又は支那大出の 指定を受けた専門学校高等課程の学科の修 了(見込み)者は「数Ⅰ」にかえて「簿記 会計」か「工業数理」を選択できる。 | 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC)] | | 個別学力検査等の出題方法について 数 学: 4科目合わせて出題し, 同一時間 内に解答させる。 |
| | 物理学部 | | 一般選抜の 全部 | 理(物, 化, 生, 地学から2) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「理科Ⅰ」を選択できる。 | 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC)] | | 個別学力検査等の出題方法について 数 学: 4科目合わせて出題し, 同一時間 内に解答させる。 |
| 生物地球科学部 | 生物学科 | | | 理(物, 化, 生, 地学から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「理科Ⅰ」を選択できる。 | 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC)] | | 個別学力検査等の出題方法について 数 学: 4科目合わせて出題し, 同一時間 内に解答させる。 |
| | 地球科学科 | | | 外(英, 独, 仏から1) 小論文 | 数(代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計) 外[英(英Ⅱ, 英ⅡB, 英ⅡC)] | | 小論文の内容については, 別掲の小論文の 内容を参照すること。 |

【注 意】備考を参照すること。

【推薦入学】

| 学部(学科, 課程, 専攻等)名 | 入学志願者に解答させる 教科・科目名等 | 選抜の対象 | 大学入試センター試験で 入学志願者に解答させる教科・科目名 | 個別 等の 教科・科目 等 | 大学入試センター 試験の利用方法 | そ の 他 |
|------------------|------------------------|-------|--|------------------------|--|-------------|
| 経 済 学 部 推 薦 入 学 | | | <p>国 社 (倫, 日, 世, 地理から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み) 者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。</p> <p>数 (「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし, 高等学校において「簿記会計」「工業数理」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了 (見込み) 者には「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業数理」を選択できる。</p> <p>理 (物, 化, 生, 地学から1) ただし, 高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み) 者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。</p> <p>外 (英, 独, 仏から1)</p> | <p>個別学力検査等は課さない</p> | 5教科6科目を利用するが「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」は適用しない。 | |

- 備 考**
1. 大学入試センター試験の教科・科目で必要とする科目数を超えて受験した場合の取扱いについて
 - イ. 後期日程の工学部 (機械工学科) の理科は, 指定した2科目の成績を用いる。
 - ウ. A日程の経済・経営学部第二課程の社会又は理科は, 高得点の教科・科目の成績を用いる。
 - エ. 上記ア・イ・ウ以外の理科は, 高得点の科目の成績を用いる。
 2. 前期日程の発達科学部の人間発達科学科を志願する者は, 文科系又は理科系のいずれかの教科・科目を選択し, 受験しなければならない。
 3. 前期日程の発達科学部の人間環境科学科を志願する者は, 文科系受験コース又は理科系受験コースのいずれかを選択し, 受験しなければならない。
 4. 前期日程の発達科学部の人間行動・表現学科を志願する者は, 音楽受験コース, 美術受験コース又は体育受験コースのいずれかを選択し, 受験しなければならない。

5. 後期日程の発達科学部の人間環境科学科を志願する者は, 文科系小論文受験コース, 理科系数学受験コース又は理科系小論文受験コースのいずれかを選択し, 受験しなければならない。
6. 後期日程の発達科学部の人間行動・表現学科を志願する者は, 音楽受験コース, 美術受験コース又は体育受験コースのいずれかを選択し, 受験しなければならない。
7. 前期日程の経営学部は, 入学者選抜の際, 次の者についてそれぞれ優先的に取扱う。
 - ① 大学入試センター試験の5教科 (国語・社会・数学・理科・外国語) の総合点 (大学入試センターの配点による) の高得点者 [前期日程募集人員の約30%]
 - ② 個別学力検査の3教科 (国語・数学・外国語) の総合点の高得点者 [前期日程募集人員の約30%]
8. 後期日程の経営学部を志願する者は, 数学受験コース又は英語受験コースのいずれかを選択し, 受験しなければならない。

実技検査の内容

発達科学部 (人間行動・表現学科)

音楽受験コース

前期日程・後期日程共通
全員に次の検査を行う。

1. 新曲視唱 (コーラルアンブレンジング第1巻終了程度)
2. ピアノによる初見視奏 (ツェルニー30番終了程度)
3. 簡単な二声聴音の書き取り
4. 各自任意の器楽曲又は, 声楽曲を1曲演奏すること。

- ※ 演奏は譜民族の楽器も含み, 楽曲のジャンルと様式は問わない。
- ※ 演奏する楽曲は10分以内のものとし, 自作のものでもよい。
- ※ 演奏準備を願書と共に提出すること。
- ※ ① 伴奏ピアノニストは大学で用意する。
- ※ ② 伴奏楽譜を願書と共に提出すること。
- ※ ③ 弾き歌い及び無伴奏も認める。
- ※ 楽器演奏の場合は, 無伴奏とする。
- ※ 演奏はすべて暗譜とする。
- ※ ピアノ以外の楽器は各自で用意すること。

美術受験コース

前期日程第2日目 (第1日目は個別学力検査), 後期日程第1日目 (約5時間)
造形の基礎能力をみる。

- * 水彩用具を使用する場合もあるため, 各自持参すること。

前期日程第3日目, 後期日程第2日目 (約5時間)

次の二つの課題から一つを選択する。

- A. 美術
- * 水彩用具及び彫刻用具 (粘土, べら等) を使用する場合もあるので, 各自持参すること。

B. デザイン

- * 彩色用具及び製図用具を使用する場合もあるので, 各自持参すること。

体育受験コース

前期日程

1. 基礎体力を検査する。
2. 次の14種目の中から2種目を選択し, 受験させる。
体操競技, 陸上競技, バスケットボール, バレーボール, サッカー, 野球, バドミントン, 卓球, 軟式庭球, ハンドボール, 柔道, 剣道, 剣道, 創作ダンス

後期日程

1. 集団スポーツの実践能力を検査する。
2. 運動観察力, 創意力, 表現力を試す(演技検査を課す。
(1) ビデオ映像による運動観察
(2) 指定された用具を活用して運動する

小論文の内容

文学部

1. 文学部の勉学に必要な理解力・思考力・表現力を試す問題を課す。
2. 解答時間及び配点 2時間 200点

発達科学部

- ◎人間発達科学科
1. 理解力、思考力、表現力等を問うため、資料を与えて論述させる。
 2. 解答時間及び配点 2時間30分 150点

◎人間環境科学科

文科系小論文受験コース

1. 論 文 社会科学・人文科学に関する資料を与えて論述させる。
2. 解答時間及び配点 2時間30分 200点
3. 試験の狙い 理解力、思考力、論理的表現力等を問う。

理科系小論文受験コース

1. 論 文 自然科学に関する資料を与えて論述させる。
2. 解答時間及び配点 2時間30分 200点
3. 試験の狙い 理解力、思考力、論理的表現力等を問う。

法学部

1. 論文I 資料を与えて論述させる。(800字-1000字程度)

論文II 文献を読ませて要約させる。(500字程度)

2. 解答時間及び配点

- ・論文I : 2時間30分 120点
- ・論文II : 2時間 80点

3. 試験の狙い

- 理解力、思考力、表現力を問う。
4. 出題には英文が含まれる。従って英和辞典を持参のこと。

理学部

◎物理学科

1. 筆記試験 高等学校における理科(主として物理)の問題を与えて、論述又は他の形式で解答させる。

2. 解答時間及び配点 2時間 200点

3. 試験の狙い 理解力、思考力、表現力等を問う。

◎地球科学科

1. 筆記試験及びその狙い 自然科学の勉学に必要な論理的解析力、直観力、表現力等を試す問題を与えて、解答させる。

2. 解答時間及び配点 3時間 400点

医学部

1. 総合筆記試験 和文又は英文の問題を与えて、論述又は他の形式で解答させる。
2. 解答時間及び配点 3時間 400点
3. 試験の狙い 理解力、解析力、社会性、論理性、総合学力など、医師となるための適性を見る。

大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点

| 日 程 | 前 期 | | | 日 日 | | | 程 | | | A | | | 日 程 | | |
|-----|------------|-------------|------------|---------------|-------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 文 学 部 | 国 際 文 化 学 部 | 発 達 科 学 部 | 人 間 環 境 科 学 部 | 人 間 行 動 ・ 表 現 学 科 | 法 学 部 | 経 済 学 部 | 理 学 部 | 法 学 部 | 法 学 部 | 法 学 部 | 法 学 部 | 法 学 部 | 法 学 部 | 法 学 部 |
| 学部等 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 | センター個別学力検査 |
| 国語 | 100 | 150 | 100 | 150 | 100 | 150 | 100 | 150 | 100 | 150 | 100 | 150 | 100 | 150 | 100 |
| 社会 | 100 | | 100 | | 100 | | 100 | | 100 | | 100 | | 100 | | 100 |
| 数学 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 | 75 |
| 理科 | 75 | | 75 | | 75 | | 75 | | 75 | | 75 | | 75 | | 75 |
| 外国語 | 100 | 125 | 100 | 125 | 100 | 125 | 100 | 125 | 100 | 125 | 100 | 125 | 100 | 125 | 100 |
| 小論文 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実 技 | | | | 320 | | | | | | | | | | | |
| 計 | 450 | 350 | 450 | 350 | 400 | 400 | 400 | 400 | 425 | 375 | 450 | 350 | 375 | 425 | 600 |
| 合 計 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 600 |

備考 1. 経済学部の推薦入学については、上記の教科別配点を適用しない。
2. 前期日程の経営学部の人学者選抜の際、次の者についてそれぞれ優先的に取扱う。
(1) 大学入試センター試験の5教科(国語・社会・理科・数学・外国語)の総合点の高得点者(前期日程募集人員の約30%)
なお、配点は国語 200、社会 100、数学 200、理科 100、外国語 200(大学入試センターの配点)による。

(2) 個別学力検査の3教科(国語・数学・外国語)の総合点の高得点者(前期日程募集人員の約30%)
3. 表中の×印は、大学入試センター試験を受験しなくてもよい。
4. 表中の*印は、いずれか・教科を選択すること。
5. 表中の★印は、いずれか高得点の教科・科目の成績を用いる。

| 日 程 | 後 期 日 程 | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------------------------|-----|---------------------------|-----|-----|---------------------------|-----|---------------------------|-----|-----|---------------------------|-----|-----|-----|-----|
| | 後 期 | | | | | 日 程 | | | | | | | | | |
| | 文 学 部 | | 国 際 文 化 学 部 | | | 発 達 科 学 部 | | 部 | | | 管 学 部 | | | | |
| | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | | | |
| 学部等 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科 | 100 | 100 | 50 | 50 | 100 | 100 | 50 | 50 | 50 | 50 | 70 | 25 | 25 | 100 | 100 |
| 国 語 | 100 | 100 | 50 | 50 | 100 | 100 | 50 | 50 | 50 | 50 | 70 | 25 | 25 | 100 | 100 |
| 社 会 | 100 | 100 | 50 | 50 | 100 | 100 | 50 | 50 | 50 | 50 | 70 | 25 | 25 | 100 | 100 |
| 数 学 | 50 | 50 | 50 | 50 | 100 | 100 | 50 | 50 | 50 | 50 | 70 | 25 | 25 | 100 | 100 |
| 理 科 | 50 | 50 | 50 | 50 | 100 | 100 | 50 | 50 | 50 | 50 | 70 | 25 | 25 | 100 | 100 |
| 外 国 語 | 100 | 200 | 100 | 150 | 150 | 150 | 100 | 100 | 100 | 100 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 |
| 小 論 文 | 200 | 200 | 150 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 250 | 250 | 250 | 250 | 250 |
| 英 技 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 400 | 400 | 400 | 200 | 350 | 150 | 300 | 200 | 200 | 300 | 200 | 300 | 200 | 400 | 200 |
| 合 計 | 800 | 600 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 500 | 600 | 450 | 125 | 125 |

備考 6. 表中の○印は、大学入試センター試験を必ず受験しておく必要があるが配点はしない。

| 日 程 | 後 期 日 程 | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------------------------|-----|---------------------------|-----|-----|---------------------------|-----|---------------------------|-----|-----|---------------------------|-----|-----|-----|-----|
| | 後 期 | | | | | 日 程 | | | | | | | | | |
| | 理 学 部 | | 学 部 | | | 医 学 部 | | 工 学 部 | | | 農 学 部 | | | | |
| | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | | セ ン タ ー 個 別 学 一 試 験 力 検 査 | | | | |
| 学部等 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科 | 100 | 100 | 50 | 50 | 100 | 100 | 50 | 50 | 50 | 50 | 75 | 50 | 50 | 100 | 100 |
| 国 語 | 100 | 100 | 50 | 50 | 100 | 100 | 50 | 50 | 50 | 50 | 75 | 50 | 50 | 100 | 100 |
| 社 会 | 100 | 100 | 50 | 50 | 100 | 100 | 50 | 50 | 50 | 50 | 75 | 50 | 50 | 100 | 100 |
| 数 学 | 50 | 150 | 50 | 150 | 50 | 150 | 50 | 150 | 50 | 150 | 50 | 150 | 50 | 150 | 175 |
| 理 科 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 |
| 外 国 語 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 175 |
| 小 論 文 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 |
| 実 技 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 350 | 250 | 350 | 450 | 350 | 100 | 300 | 400 | 400 | 400 | 425 | 375 | 520 | 280 | 450 |
| 合 計 | 600 | 800 | 800 | 450 | 600 | 600 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 | 800 |

備考 7. 表中の×印は、大学入試センター試験を受験しなくてもよい。
8. 工学部(機械工学科)の大学入試センター試験の理科の配点は物理 100点、化学又は理科 I 80点とする。

身体に障害を有する者への注意事項

身体に障害を有するもので、本学を志望する場合は、平成4年12月18日(金)までに志望する学部に出願してください。

ただし、体幹及び両上下肢の機能障害が著しい者で、大学入試センター試験の代筆解答を希望する者は、センター試験出願以前のできるだけ早い時期に志望する学部と相談してください。

| 選抜方法等 | 学 科 名 | 看 護 学 科 | 生 衛 生 技 術 学 科 | 理 学 療 法 学 科 | 作 業 療 法 学 科 | 備 考 |
|---|---|---------|---------------|-------------|-------------|-----|
| ア 推薦入学 | | × | × | × | × | |
| イ 帰国子女、社会人等のための特別の選抜 | 国 女 婦 子 中 国 引 揚 婦 子 等 子 女 社 会 人 | × | × | × | × | |
| ウ 学力検査を課さないで、調査書を主な資料として判定する | | × | × | × | × | |
| エ 学力検査等に先立ち、調査書を主な資料として判定し、この合格者に対して学力検査等を課して最終的に判定する | | × | × | × | × | |
| オ 調査書に⑥標示を希望する | | × | × | × | × | |
| カ 調査書に能力・適性等に関する推薦の記入を希望する | | × | × | × | × | |
| キ 学力検査の一部又は全部を他の大学と共同し、共通の学力検査として実施する | | × | × | × | × | |
| ク 学力検査を第1次と第2次に分け、第1次学力検査の合格者に対して第2次学力検査を課する | | × | × | × | × | |
| ケ 実技検査を課する | | × | × | × | × | |
| コ 面接を行う | | × | × | ○ | × | |
| サ 小論文を課する | | × | × | × | × | |

| 出題教科・科目名 | 科目数等 | 出題科目 | 受験科目数 | 摘 要 | |
|----------|------|------|-------|---|---------------|
| | | | | 看 護 学 科 | 生 衛 生 技 術 学 科 |
| 国 語 | ◎ | ◎ | 2 | (1) 2科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。 (2) 各科目とも「古典(古文・漢文)」は除外する。 | |
| 数 学 | ◎ | ◎ | 4 | (1) 4科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。 (2) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確率分布」及び「統計的な推測」は除外する。 | |
| 理 学 | ◎ | ◎ | 2 | (1) 3科目のうち2科目を選択し、同一時間内に解答させる。 (2) 各科目とも「理科I」に含まれる内容をも出題の対象とする。 | |
| 外 国 語 | ◎ | ◎ | 3 | 3科目合わせて出題し、同一時間内に解答させる。 | |
| 合 計 | | | 11 | | |

備考 出題科目欄の◎印は必須科目、○印は選択科目を示す。

◇平成5年度大学院学生募集要項 (抜粋)

◎修士課程

| 研究科 | 専 攻 | 募集人員 | 出 願 期 間 | 試 験 日 | 試 験 場 | 合格者発表 |
|-----------------|-------------|------|-----------------------------------|--|----------------|--------------|
| 教育学 研究科 | 学校教育専攻 | 10名 | H4. 9.14 (月)) H4. 9.18 (金) | H4.10. 5 (月) | 神戸大学 教育学部学会 | H4.10.16 (金) |
| | 国語教育専攻 | 5名 | | | | |
| | 社会科教育専攻 | 10名 | | | | |
| | 数学教育専攻 | 5名 | | | | |
| | 理科教育専攻 | 10名 | | | | |
| | 音楽教育専攻 | 5名 | | | | |
| | 美術教育専攻 | 5名 | | | | |
| | 保健体育専攻 | 5名 | | | | |
| | 技術教育専攻 | 5名 | | | | |
| | 家政教育専攻 | 5名 | | | | |
| 英語教育専攻 | 5名 | | | | | |
| 国際 協力 研究科 | 国際開発政策専攻 | 24名 | H4.10. 1 (木)) H4.10.14 (木) | H4.10.22 (木)・23 (金) | 神戸大学 経済学部学会 | H4.10.30 (金) |
| | | | | | | |
| 理 学 研究科 | 数 学 専 攻 | 約10名 | H4. 8.24 (月)) H4. 8.28 (金) | H4.9.21 (月)・22 (火) H4.9.16 (水)~18 (金) H4.9. 9 (木)・10 (木) H4.9.24 (木)・25 (金) H4.9.21 (月)・22 (火) | 神戸大学 理学部学会 | H4.10. 2 (金) |
| | 物 理 学 専 攻 | 約10名 | | | | |
| | 化 学 専 攻 | 約10名 | | | | |
| | 生 物 学 専 攻 | 約10名 | | | | |
| | 地 球 科 学 専 攻 | 約10名 | | | | |
| 工 学 研究科 | 建築学専攻 | 27名 | H4. 7.27 (月)) H4. 7.31 (金) | H4.9. 1 (火)・2 (水) | 神戸大学 工学部学会 | H4. 9. 4 (金) |
| | 環境計画学専攻 | 24名 | | | | |
| | 電気工学専攻 | 27名 | | | | |
| | 電子工学専攻 | 24名 | | | | |
| | 機械工学専攻 | 12名 | | | | |
| | 生産機械工学専攻 | 12名 | | | | |
| | 土木工学専攻 | 12名 | | | | |
| | 工業化学専攻 | 12名 | | | | |
| | 計測工学専攻 | 12名 | | | | |
| | 化学工学専攻 | 12名 | | | | |
| システム工学専攻 | 12名 | | | | | |
| 農 学 研究科 | 園芸農学専攻 | 16名 | H4. 7. 1 (木)) H4. 7.10 (金) | H4.9. 1 (火)・2 (水) | 神戸大学 農学部学会 | H4. 9. 7 (月) |
| | 植物防疫学専攻 | 8名 | | | | |
| | 農業工学専攻 | 10名 | | | | |
| | 農芸化学専攻 | 12名 | | | | |
| | 畜産学専攻 | 12名 | | | | |

* 文学研究科については、次号以降に掲載する。

◎博士課程前期課程

| 研究科 | 専 攻 | 募集人員 | 出 願 期 間 | 試 験 日 | 試 験 場 | 合格者発表 |
|------------|------------|-------|-----------------------------------|-------------------|----------------|--------------|
| 法 学 研究科 | 私 法 専 攻 | 22名以内 | H4. 7.27 (月)) H4. 7.31 (金) | H4.9. 2 (水)~4 (金) | 神戸大学 法学部学会 | H4. 9.25 (金) |
| | 公 法 専 攻 | 28名以内 | | | | |
| 経済学 研究科 | 経済学・経済政策専攻 | 32名 | H4. 8. 3 (月)) H4. 8. 7 (金) | H4.9. 2 (水)~4 (金) | 神戸大学 経済学部学会 | H4. 9.28 (月) |
| | 国際経済専攻 | 13名 | | | | |

◎博士課程前期課程・修士課程

| 研究科 | 専 攻 | 募集人員 | 出 願 期 間 | 試 験 日 | 試 験 場 | 合格者発表 |
|------------|----------|------|---|--|----------------|-----------------------------------|
| 経営学 研究科 | 経営学専攻 | 56名 | H4. 8. 3 (月)) H4. 8. 7 (金) H4.12.14 (月) H4.12.17 (木) | H4.9. 1 (火)~4 (木)) H5. 2. 4 (木) | 神戸大学 経営学部学会 | H4. 9.18 (金)) H5. 2.12 (金) |
| | 会計学専攻 | | | | | |
| | 商学専攻 | | | | | |
| | 日本企業経営専攻 | | | | | |

◎後期3年博士課程

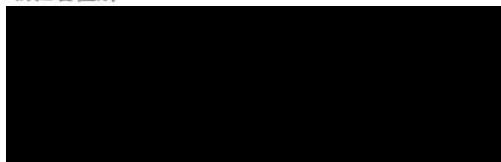
| 研究科 | 専 攻 | 募集人員 | 出 願 期 間 | 試 験 日 | 試 験 場 | 合格者発表 |
|--------------|----------|------|-----------------------------------|-------------------|--------------------------|--------------|
| 自 然 学 研究科 | 物質科学専攻 | 10名 | H4. 8. 3 (月)) H4. 8. 7 (金) | H4.9. 3 (木)~4 (金) | 神戸大学 大学院自然科学 研究科学会 | H4.10. 2 (金) |
| | 生産科学専攻 | 10名 | | | | |
| | 資源生物科学専攻 | 7名 | | | | |
| | 環境科学専攻 | 7名 | | | | |
| | システム科学専攻 | 6名 | | | | |
| | 知能科学専攻 | 6名 | | | | |

* 文化科学研究科・医学研究科については、次号以降に掲載する。

掲 示 板

◇職員の仕事変更等

・新任者住所



| 日 | 誌 |
|---|---|
|---|---|

(平成4年6月)

- | | |
|---------|---------------------|
| 6月3日(水) | 遺伝子実験施設竣工式・祝賀会 |
| 6日(土) | 山口誓子学術振興基金公開講演会 |
| 11日(木) | 部局長会議 |
| 16日(火) | 社会教育主事講習開講(7月24日まで) |
| 25日(木) | 評議会 |
| 30日(火) | 事務連絡会議 |



神戸大学100年史編集室だより

—歴史のひとこま—

—前身校の歴史—神戸医科大学—

戦後の学制改革によって全国的に新制大学が発足するのは昭和24(1949)年である。兵庫県立医科大学でもこの学制改革にともなって旧制度による大学は廃止となるため、新制大学への切替が問題となった。

具体的には、これまでの予科の学生募集が24年度から停止となり、予科それ自体も翌25年度で閉鎖となった。予科開学以来5カ年、その間に修了者の数も356名に達していた。

また旧制大学としての兵庫県立医科大学は、在学生が卒業する迄は存続することとなったけれども、新制への移行期限がせまってきた26年10月10日には新制大学設置認可申請書を文部大臣に提出した。そして翌27年2月20日には新制大学設置が認可され、4月1日には新制大学としての「神戸医科大学」がスタートした。

4月10日に第1回専門課程入学式を挙行し、同月20日には開学式も挙行された。新制神戸医科大学は発足したものの、一般には明治・大正・昭和の三代に亘る県立神戸病院(県病)はよく知られていたが、神戸医科大学の方は知る人も少なく、そのため「県立神戸病院附属医科大学」と自称せざるを得ない状況であった。

新制度への移行の結果、既述のように予科が閉科となると共に、新制度による医学教養課程(医学予備課程)が、昭和25年4月同じく県立の新制大学として発足した兵庫農科・姫路工業両大学の一般教育課程の中に設置された。

その当時の両大学における教育内容は明らかではないが、4年後の29年に両大学と神戸医科大学との間で調印された「医学進学課程設置に関する協議書」によると、入学定員は兵庫農大が40名、姫路工大は30名であり、具体的な教育課程は両大学で若干の相違は見られるが、概して人文・社会科学に関する科目の中からそれぞれ3科目づつ、自然科学に関する科目から4~5科目、それに外国語と体育そしてその他の基礎科目などによって、姫路工大では合計67単位以上、兵庫農大では73単位以上修得が修了条件とされた。両大学における医学進学課程を修了した者は、自動的に神戸医科大学へ無試験で入学することができた。

このように兵庫農科・姫路工業両大学における医学進学課程というのは、予科廃止によって生じた神戸医科大学生のための一般教育を担当する教養部を意味するものであった。

入学に関する条件整備が着々と進むにつれ、より大きな充実・発展への動き(大学院設置運動)もその後顕著になる。